㈲マルコー電装
代表取締役

TETSUKA　YOSHIHIRO

手塚宣弥

PICK UP
THE PERSON

KEY WORD

盤石
— banjaku —

設立以来、万全の仕事を果たす電装会社として歩んできた『マルコー電装』。
長年培ってきた基盤に「ニーズを汲み取る力」が強化されたのは近年のことだ。
ことの発端はリーマン・ショック。従来の電子部品組立などの仕事がなくなり、
代わりに海外生産分の品質チェックの仕事をメインで行うことになった。
そして確かな検査に努め、お客様と綿密に話をする中で、お客様のニーズを知り、
求められていることに応えんとする対応力が向上していったのだ。
現在は確かな検査体制と、報告の詳しさで業界から一目置かれる同社。
今後は技術力もより強化し、さらに事業の基盤を盤石にしていく構えだ。

**「危機の中で行った検査の仕事が
事業の基盤を強固にしてくれました」**

© 2020 USP-Management Co., Ltd.

息子を想い、周囲の幸せを何より願った先代から受け継いだもの

▼『マルコー電装』の沿革を語る上で欠かせないのが、先代である手塚社長のお父様の存在だ。実は社長は就職活動時、「同業で就職活動をしていることを関係者に知られ、父に迷惑を掛けるようなことがあってはならない」と周囲に隠していた。しかしある日、社長宛に内定通知書が送られてきて、お父様に見つかってしまった。しかもその会社は『マルコー電装』が仕事を請けているお客様ではないか。ここで初めて事情を知ったお父様は「本当に大丈夫か」と心配し、社長も連れて当の会社の工場長に相談しに行った。そして「理系だし向いているだろう。それにコネクタは色々な分野で活用され、将来性もあると思う」との助言をもらうに至ったという。

▼そして７年後、社長は工場長を通してお父様の異常を知る。「お父さんが体調を崩しているようだ。病院で診てもらいなさい」。その言葉に驚き、急いで検査してもらったところ、大腸がんが発覚。傍にいるお母様、お姉様も異常に気づかなかった。いや、気づかせなかったのだ。当時社長は結婚式を控えており、お父様は家族に迷惑を掛けたくないと我慢していたのである。骨にも転移しており余命半年――「相当痛みを我慢していたのでしょう。つらかったと思います」と社長は振り返る。そこで社長は家業を継ぐことを決心した。お父様も「戻ってきてほしい」と一言。それまで仕事の話をすることも、弱音を吐くこともなかったお父様の初めての懇願だった。

▼『マルコー電装』の社名は、お父様の「正幸」とお母様の「幸子」の両方に入っている“幸せ”をマルで囲む会社という思いから名づけられたという。そんなお父様の想いを全身で受け取った社長は今、お父様と同じく周りの全ての人を幸せにするべく、歩み続けている。

After the interview

「リーマン・ショック時には仕事がなくなり、従業員さんと共に臥薪嘗胆の日々を続けていた『マルコー電装』さん。そうした危機の中で検査の仕事をもらえたのは、培ってきた信頼の証だと思います。これからも信頼される確かな仕事を武器に歩みを進めていって下さいね！」

◀親子、姉妹など、ご家族で勤務している従業員さんたち。働きやすい環境づくりに注力している『マルコー電装』では、その環境の良さから親子や兄弟が一緒に勤務しているケースがいくつもあるという。

万全の検査体制と対応力で信頼を得る会社

TETSUKA YOSHIHIRO 手塚 宣弥 ㈲マルコー電装 代表取締役 × 島崎 俊郎 タレント

栃木県日光市に本社と２つの工場を構え、電子部品の検査・組立・梱包を中心に製造請負業務を手掛けている『マルコー電装』。その検査体制の充実やお客様のニーズに応える姿勢が高く評価され、2020年４月には横浜サテライトオフィスも開設した、信頼と実績の会社だ。本日はタレントの島崎俊郎氏が同社を訪問し、手塚社長にインタビュー。同社が歩んできた波乱万丈の道程について伺った。

――まずは『マルコー電装』さんの事業内容からお聞かせ下さい。

当社は電子部品の検査・組立・梱包を中心に、製造請負の業務を担っています。元々は基盤の実装・設計を手掛けていた父が30歳ごろに立ち上げた会社。バブル期に大手外資系メーカーが隣町の塩谷町に工場を構えてコネクタ（電子接続部品）を手掛けており、部品の検査や組立の依頼をいただいたことから、そちらの仕事をメインに行うようになりました。

――手塚社長が御社に入られるまでの経緯はどのようなものだったのでしょう。

学生時代は理系で工学系の仕事を希望していまして、「父が手掛けているコネクタの仕事とはどういうものなのか？」と思って自分で調べてみたんですね。そして、コネクタは自動車や家電・通信系など全てに使われる部品のため、今後10年20年先も需要のある物で不景気にも強いとの結論を得て父と同業に進むことを決意。そして勤めることになったのが、偶然ながら『マルコー電装』がコネクタの仕事の依頼を請けている会社でした。その後は7年ほどそちらで開発の仕事に従事していたのですが、父が大きな病気を患っていることが分かり、退職して家業を継ぐことになったのです。

――そうでしたか。実際に家業を継いでみていかがでしたか。

周囲の方々に恵まれ、順調に事業を進めることができました。会計や労務に関しては父が起業してからお付き合いのある人が担ってくれましたし、従業員も頼もしく、私は実務に専念できました。加えて前職でお世話になった方がお付き合いを続けて下さり、実務のことから「人生とは」「仕事とは何か」といったことまで、多岐にわたる〝大切なこと〟を教えていただいたのです。そして従業員を大切に進み、人数も増えて派遣のスタイルも導入しながら、隣町のお客様の工場付近に貸工場を借りて一時は１００人を超える大所帯となったのですが、その後リーマン・ショックが起こりまして……。どのコネクタメーカーさんとも取引できなくなり、従業員の仕事がゼロとなる状況に陥ってしまいました。

――それは大変だ。どのようにしてその危機を乗り越えられたのでしょう。

そのころ、業界において海外に類似の機械を入れて海外生産する流れが始まりまして。そのキーマンとも言えるような方とお話をさせていただき、その縁で新たな仕事をいただくことができたのです。「海外生産は品質面の問題が生じる可能性があり、その対策を講じる必要性がある」とお話ししたところ、先方も「まさにその通りです」と同意して下さいまして。セットメーカーさんもそのリスクを把握して品質チェックに注力しつつあったことから、検査の仕事をいただけるようになったんですよ。

――ほう！　それは信頼がなければ絶対いただけない仕事ですね。

もっとも、検査の仕事だけでは1～2万個の検品依頼があっても従業員全員が毎日8時間労働できるほどの時間数に達せず、従業員に多大な負担を掛けることになってしまいました。派遣は撤退せざるを得ませんでしたし、従業員も状況が回復するまで会社都合の退職という形で就業給付が出る形にし、1週間に20時間までアルバイトも可にして、パートタイムで我慢してもらいました。また、私共が手掛けるコネクタは元々はプラスチック部品と金属部品が組み合わさった物。そこで、それぞれの部品を造っているお客様との縁でお仕事をいただくことで取引先を増やしてきました。そうして危機をしのぐうち、以前のようにコネクタメーカーさんからも声をいただけるようになり、やがて仕事量が回復。多くの従業員がフルタイムで働ける環境を取り戻すことができたのです。

――皆で辛抱し、乗り越えてこられたんですね。その中で行った検査のお仕事も御社の強みとなったのではないですか。

仰る通りです。父の時代から培ってきた基盤に加え、検査を通してお客様と細かな話をすることで、お客様のニーズを深く知り、応えられる対応力がつきました。検査は行えばそれだけで良いというものではなく、検査後に結果を工場内などで共有して改善や対策に取り組む必要がありますし、外部への説明も必要です。そのため実際に検査にあたった者が細かく分かりやすくお客様に伝えることが重要で、その点で当社の仕事はご満足いただけているように思います。コロナ渦が起こり、多くの企業さんが大変な危機に陥っているのですから、こうして仕事を続けられているのは本当にありがたいこと。お仕事をいただけることへの感謝を忘れず今後も良質な仕事に努め、お客様はもちろん、従業員を含めた当社に関わる全ての人が幸せになれるような環境を築いていきたいですね。

▶お父様の想いを受け止め、『マルコー電装』にて手塚社長と共に尽力されているお姉様（写真右）を交えて。

MARUKOH HUMAN TECHNOLOGY COMPANY

有限会社　マルコー電装

【本社・第一工場】栃木県日光市沓掛 520-4
【日光第二工場】栃木県日光市沓掛 215-1
【横浜サテライトオフィス】神奈川県横浜市泉区
URL：http://www.mrk-dns.co.jp

▶『マルコー電装』のロゴマークには、様々な想いが込められている。上部の小さなマークは「幸」の漢字を丸で囲んだ、社名の由来となるもので、それを男性を意味する青線と、女性を意味する赤線が取り巻いている。下部の大きなマークは人の手足をイメージしたもの。そして足の付け根が中に入っていくことで、未来につながる「道」にも見える。これは「未来への道へとつなぐ」との意味が込められているという。

© 2020 USP-Management Co., Ltd.